

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

女性が変わる金融市場

資産運用に参加を

金融庁の金融研究センターが1月に国際会議を開きました。低所得層の人たちや零細事業者が、基本的な金融サービスを利用しやすくすることがテーマでした。預金や送金、少額融資、資産運用などのサービスを、こうした利用者へ広げることを専門家は「金融包摂」と呼んでいます。

金融包摂はこれまで、発展途上国の開発手法として語られてきました。織物や工芸などの産業を広げようとする農村の女性に、少額の融資を提供する「マイクロファイナンス」などの具体例があります。途上国の人々の所得向上や、経済的地位の安定を目的としてきました。

日本には金融機関の店舗や現金自動預払機（ATM）がたくさんあり、誰でも金融サービスを利用できているように見えます。

でも資産運用はどうでしょうか。日本の家計の金融資産は、昨年6月末で約1600兆円に達していました。しかし、この多くは・歳以上が保有しているとみられます。さらに大部分が預貯金や年金・保険に向けられています。名義人の多数は男性でしょう。「限られた金融商品を限られた人が利用している」というのが実情と思われれます。

アベノミクスでは女性の活用が大きなテーマです。主に労働市場への参加を念頭に置いた政策が検討されています。ただ金融市場に参加する女性はまだ少ないのです。

そうした状況の中で、グッドバンカーがかかわった、環境対策に熱心な企業に投資するエコファンドは、他の金融商品に比べ女性の保有者の比率が高くなっています。

金融市場への女性参加が進めば、投資先を求めるお金の流れが変わる可能性があります。利用者の裾野が広がれば、金融サービスはもっと進化するはずで
す。（株式会社グッドバンカー）